慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ベンチャー企業として成功するためにどのような創業者チームが必要か
Sub Title	
Author	島田, 康太郎(Shimada, Koutarou) 奥村, 昭博
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2002
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2002年度経営学 第1778号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002002-1778

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論 文 要 旨

所属ゼミ	奥村研究会	学籍番号	８０１２８４２０	氏名	島田康太郎

（論文題名）

ベンチャー企業として成功するためにどのような創業者チームが必要か

（内容の要旨）

もともとベンチャー企業は、資金や人材、技術等資源が非常に少ないと言われている。しかしスタート地点の不利な状況は皆同じなのに、成功するベンチャーとそうでないベンチャーがいるのはなぜだろうか。これがこのテーマを書くにあたって最初に思いついたきっかけである。

経済産業省の「工業統計表」から、製造業の事業所の退出率を見ると、１年目で約３割の企業が消滅している。しかしながら１年目の危機を乗り越えると、２年目、３年目以降の退出率は次第に低下し、４年目以降はほぼ安定してくる。また中小企業庁「創造環境に関する実態調査」によると、創業時の問題として、第１に資金、第２に販売先、最後に人材確保が大きな問題としてあげられている。これらの資料から考えると、1 年目に発生する、資金繰り、販売先、人材の問題を解決できれば、ベンチャー企業の生存確率が上がることが考えられる。

この論文では、安定期である４年以上の生存をベンチャー企業の成功と定義し、どのようにすれば、これらの問題を解決できるかを、創業者チームの持つ人脈を切り口として考えていく。その為にマーク・グラノヴェターの転職の事例から見るネットワーク理論とウェイン・ベーカーのソーシャルキャピタル理論を転用し、創業者チームの構成をフォーマルクローズ（会社の同僚）、フォーマルオープン（求人）、インフォーマルオープン（同級生）、インフォーマルクローズ（家族）４つのチームに分類する。そして、創業者チームの持つ人脈とベンチャー企業の成功の関連性及び、どのチームが成功するために必要な情報を入手できる人脈を持っているのかを、ベンチャー企業１００社のアンケートと７社のインタビューにより調査し結論を出した。最終的な結論を提示した後に、この論文ではグラノヴェターとベーカーの理論の限界についても考えていく。